

2019年4月16日

統計検定 CBT による『データサイエンス』創設のお知らせ

一般財団法人統計質保証推進協会は、統計検定に新たに CBT による『データサイエンス』（統計検定 CBT-DS）を設置し、今年度から実施します。

AI・デジタル社会が急速に本格化するなかで、その基盤を支えるデータサイエンス人材に対する社会の需要が次第に大きくなっています。初等中等教育においてはプログラミングと統計教育の拡充／必修化、大学においては文系・理系のいずれにおいても数理・データサイエンス教育の強化、大学院においては社会人のデータサイエンス能力の強化が進められつつあり、データサイエンス人材の育成は、今後、規模と質の両面でますます拡大を図るべき重要な課題となっています。

本協会は、これまで日本統計学会公式認定として「統計検定」を創設し、統計的能力の客観的な認証に取り組んできており、上記の課題に対応すべく、『データサイエンス（DS）』能力を評価する検定制度を設けることを検討してまいりました。このたび評価問題の開発が軌道に乗ったことから、今年度末から順次「データサイエンス基礎」、「データサイエンス発展」、「データサイエンス応用」の3段階で、データサイエンスの技能と思考力の評価・認証を、全国共通試験として実施することといたしました。「DS 基礎」については新学習指導要領、「DS 発展」と「DS 応用」については、数理・データサイエンス教育強化拠点コンソーシアムによるスキルセットに準拠した内容となります。完成次第、「DS 基礎」から順次、CBT 問題の配信を開始いたします。

本協会では統計検定 CBT-DS の実施を通して、学生および社会人のデータサイエンス学修の達成度評価およびデータサイエンス人材の質保証を行い、データ駆動型超スマート社会実現に向けて社会の附託に応えてまいります。

試験の種別	試験内容
データサイエンス基礎	エクセルを活用したデータ処理とアナリティクス基礎
データサイエンス発展	数理、計算、統計、倫理に関する大学教養レベルの内容
データサイエンス応用	計算、統計、モデリング、領域知識に関する大学専門レベルの内容